

防

災に直し、一人ひとりが認識の上、助けあってぬくもりのあるまちになってほしい。だんだんと失われていく四季感を取り戻し、「ふるさと下町」と思えるまちとなっていくように望みます。

栗境の桜の延長に隣りでは、静かに桜の美しさを愛でられるようにのびてほしい。お酒の臭いのしないところで花見ができればと願います。

(女性・向島五・40才)

計

画が実行できまじたら、理想的なまちづくりができると思っています。ぜひお願いいたします。非常に難しいと思います。が、機転道路をつくっていただきたいと思います。

(男性・東向一・51才)

地

蔵坂に住んでおりますが、一歩出ればもう車。買い

計画案

に對する

声

一月 十三日

物に出れば、停車している車の外側、道路の真ん中を歩かぬばならない。自転車やバイク、陣列物をよけて、車を気にしつつ、毎日外に出します。車の量を減らして安全な道路にして下さい。

(女性・東向一・40才)

に東向島三丁目、地

蔵坂通りのお地蔵様のすぐそばで火事がありました。きな臭いことから、近所の人から火元を探しまわりました。小火ですみました。「住民の力で小火に終わらせた」と思いました。力をあわせて災害に強いまちにしたいです。

(女性・東向一・40才)

事

務局長のいわれる通り、「夢」に向って努力することに賛成です。何かと先に立つ

和太鼓にかけろ。一言人の心意気

慶常太鼓

一言祭のフィナーレを飾ってくれた「よしつね太鼓」。今でも子供たちが力い、はいに太鼓を叩く姿が目に浮かぶ。今回は、その指導にあたり、鹿野又慶明さん(東向島三丁目在住)をたずねた。

「白龍神社の祭囃子の御神楽太鼓を幼友達と二人で習ったのをきっかけに、八年前にその友人と二人で創ったのです」と鹿野又さん。慶常太鼓の名前は二人の名前(慶明の慶と常男の常)からとってつけたそうだ。

「太鼓が好きだから、次の世代に受け継いで欲しい」という想いで、子供達を指導している。「指導の基本は最低限のマナー教育ですね。例えば太鼓を打つ前にその太鼓に対して一礼。そのあ



「太鼓のところが好きで、難しいリズムに乗れたとき。」

記事

桜橋に水上バスの



最後に、一番のご苦労は何かと伺うと、「練習場所の確保と、子供には思い切り太鼓を叩せながら、近所には迷惑をかけないように音を消す工夫ですかね」と、笑顔を答えて下さった。

〔若木菊枝〕

た

くさんあって大変そうだけれど、できるところからひとつでもや、ていけばよいと思う。私のできる事があれば協力したい。

(女性・向島五・32才)

一

昨年、京島で火災をまのあたりにしました。消防車が火災現場まで入っていき、大変な事になってしまいました。私の家は、塀を生け垣にし、1メートルほどセットバックしておりますが、私の家に至る道は幅員が二メートルほどしかありません。果たしてホースが届くかと思うと疑問があります。総ての道に消防車が入っていきけるように切望いたします。

(男性・東向一・37才)

大

地震に對して逃げないですむまちづくりを希望します。木造密集地域なので、二次災害としての火災がとにかく心配です。

(女性・東向一・36才)

ま

だ住んで四年ほどだから、このまちのことはよくわからないけれど、防災広場をつくるならば、単に防災を目的としたものはなくなり、青空バザーを開けるような広場にしてほしい。

(女性・東向三・33才)

各

町会によつて抱える問題は様々だと思つけど、この一言会の発足で、より充実した活動ができるのではないかと感じます。そしてこの瓦版が町会の役員さんと一般町会員(住民)との架け橋になっていくといいですね。問題も多々あると思うけれど、理解しあい、協力しあうというところが、まちづくりではかなり大切な部分を占めるものと思われれます。

(男性・向島五・42才)



一言会会長 則武勝尚さん (Green)

東向島一丁目中町会の会長を務めている則武さん。柔和な顔だちに立派な体格。人柄の良い下町の代表という感じ。保護司、民生委員、氏子総代、町会長も五期と、肩書きがたくさんある。織物の町、愛知から17才でこの地に移り住み、大恋愛の末、19才で結婚。二年前に奥さんを亡くされたのを機に、擦糸工場も閉めた。ただ今三世代家族のやさしいおじいちゃん。

昨年の一言葉では、実行委員長という大役につき、その実績から、一寺言問地区の他の五町会から推されて一言会の会長に選ばれた。

「天命を心得た」と、まちづくりに並々ならぬ意欲を燃やしている。

〔高橋純子〕



「じゃあ、苦しい時は？」
「ないヨ。太鼓を叩くと
苦しい事がある、たような
気がしてもすぐ忘れちゃ
う。」
子供たちが生き生きと
して踊るのは、鹿野又
さんの指導の影響だろう
か。

おかげさまで瓦版第十号

投稿を待っています。

瓦版が昨年の九月に発刊され
てから、はや一年半余り。おかげ
さまで第十号を迎えました。一寺
言問のまちづくり情報を経々な角
度から取り上げてお送りしてきま
したが、皆様いかがでしたか。今
後はもう少し、こんだ内容にし
ていきたいと思ひます。皆様から
の投稿もお待ちしております。
第一号からのバックナンバーも
そろっており、必要の方は編
集局までご連絡を、「編集局」

一寺言問のまちづくりが

オートスライドになった

一昨年からスタートしたこのま
ちづくりを記録した映像(オート
スライド)が近く完成する。「も
っと、防災まちづくり・したい」と
と護したこの映像は、芝居による
説明会から、わいわい会の活動
一言察、そして一言会が現在進め
ている計画づくりまで約百枚の写
真で構成。ナレーターは、東向原
三丁目在住の講師の室井琴梅さ
ん。ご覧になりたい方は、一言会
事務局までご連絡を。

新聞

東京都の新しい水上バス計画

ステーション!?

「隅田川と未来都市の東京湾埋め
立て地を水上バスで結ぶ夢とロマ
ンにあふれた遊覧ルート計画がい
よいよ動き出し、東京都は四月か
らどこに発着所(ステーション)
をつくらうかの調査をはじめ
める。パリのセーヌ川をまねたテ
ラスづくりも今年からスタートし、
隅田川にも発着所ができる。」

「東京都の計画によると、水辺を
散策できるテラスは、今年、桜橋
と永代橋の周辺一帯にわたって整
備される。ここには、将来の水上
バス計画に備え、発着所もあわせ
てつくられる。」

「発着所は隅田川が流れる中央、
墨田、台東、荒川、江東、足立、
北の七区に二ヶ所ずつ、それに東
京港には葛西海辺公園、夢の島、
辰巳、大井ふ頭の四ヶ所の埋め立
て地に整備していく。」

「新しい水上バス計画には、沿岸
七区がとりわけ熱心で、東京都は
近く「隅田川再生検討委員会」を
つくり、関係各區と水上バスの発
着所の位置、事業主体や運航計画
をどうするのか、話しあいを進め
ていくことにしている。」

「2月21日付サンケイ新聞夕刊」



隅田川には散歩も楽しめるテラスづくりが始まる。水上バスの発
着所も整備され、将来はセーヌのように変身する—エ・渡部 淳

一寺言問／防災まちづくり瓦版 第十号 昭和六十二年四月一日

企画編集／一言会瓦版編集局

墨田区模範一六六一 墨田区都市整備部開発
促進室内 社(六二六)三二五一(内六五五)